

賀茂高女昭和 21 年卒業生の手記集



昭和 17 年に賀茂高等女学校へ入学した女学生たちは、3 年生になると広島陸軍被服支廠学校工場での学徒勤労働員に従事。4 年生への進級を控えた昭和 20 年の 2 月からは親元を離れ、現在の呉市広にあった第 11 海軍航空廠の発動機部において戦闘機部品の旋盤加工作業にあたった。作業は昼夜三交替制で、度重なる空襲警報や米軍の戦闘機による機銃掃射に怯えながらの作業であった。

8 月 15 日の終戦後、動員が解除されて帰宅したのも束の間、8 月 16 日前後にかけて被爆者救護応援隊の結成と隊への召集要請が伝わった。召集に応じた女学生たちは、凄惨な状況と不足する救援物資のなか、数名の引率教諭とともに市内 4 カ所（広島通信病院・本川国民学校・第一国民学校・大河国民学校）において、懸命に作業にあった。